

新婦

見知らぬ神は囁く

のぼりゆく炎に手を合わせるわたしに

あなたは一体

どちら様でしょう

わたしは眩く

不安な胸の内に

わたしもいつしかこの一員として

あなたの元に送り出してもらいます

青々とした山並みが囁く

帰路の窓を流れながら

これからのどの夏にも

あなたはこの神とともにありましよう

わたしは問う

永いトンネルの中で

どうしてだろう

どうしてわたしはここに